



水野 晃 議員
MIZUNO Akira

制度が変わる今だからこそ、学校給食の価値と将来像を明確にすることが重要である。

学校給食の無償化の位置づけは

Q 国において進められている小学校給食費の無償化を、町としてどのように受け止めているか。

A 令和8年度から行う小学校児童に対する学校給食費の抜本的な負担軽減については、子育て世代に対する有益な制度であると認識している。

Q 給食費の負担軽減が進む中で、町として学校給食をどのように位置づけているか。給食の質や内容、子どもたちにとっての価値をどのように考えているか。

A 文部科学省が策定した学校給食実施基準に基づき、児童生徒の給食1回当たりの栄養価を満たす質となるよう努めている。学校給食は子どもの心

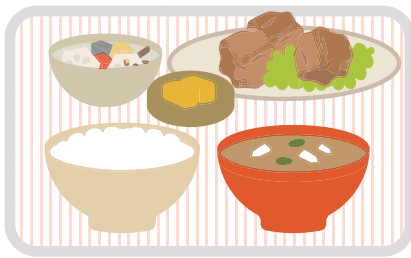
と体の成長には不可欠なものであると考えている。

Q 国の無償化が小学校を対象としている中で、学校給食全体について、町としてどのような考え方で整理しているか。

A 国の子育て世代に対する支援の動向を注視しつつ、近隣自治体の対応について情報収集を行っていく。

Q 学校給食のおいしさや満足感、質の確保・向上について、町としてどのように取り組んでいく考えか。

A 給食センター献立委員会を毎月開催し、委員である各学校の給食主任や保護者代表から今後の献立案などに対する意見を聴取している。



岩下 竜也 議員
IWASHITA Tatsuya

理念なき継続ではなく、町民の暮らしに応える責任ある変革を着実に進めるべきである。

町政の転換と責任の所在は

Q 町民の立場から見ると、町長の想いが具体的にどの政策判断に表れているのかが見えにくい状況である。

A この一年間の町政運営において、町長自身の政治判断として特に力を入れて進めた政策は何か。

Q 今回の施政方針では「これまでの取り組みを生かす」と表現している。整理すると、選挙では危機感、所信表明では方針転換、施政方針では継続と発言の変化がみられる。町政運営は、変革すべき段階なのか、それとも従来の延長線で進める段階なのか。

A 大きく転換を迎える時期であると認識している。

Q 町長がこの一年間、重点的に取り組んできた政策について、どのような成果や効果が生まれたと認識しているのか。

A 成果はすぐには表に出てこないものと認識している。

Q 施政方針において、財政状況は大変厳しいと述べている。この一年間の町政運営を通じて、町長が最も大きな課題と認識しているものは何か。

A 中学校改築や臨空第2公園整備である。

Q 町長として、現在最も優先すべき課題は何か。

A 教育環境改善が喫緊の課題であると考えている。



財政状況が厳しい豊山町